

# みどりとともに

第 43 号

2022 年 1 月 1 日

一般社団法人 茨城県治山林道協会

水戸市三の丸 1 丁目 3 番 2 号

林業会館 3 階



## ❖❖❖❖ も く じ ❖❖❖❖

新年のごあいさつ .....	2
第61回治山研究発表会における発表について .....	3
協会だより .....	4~7
合併にあたり当協会が歩んできた軌跡を振り返って	
治山・林道関係コンクールについて	
令和3年度治山・林道コンクール表彰式	
協会の主な動き .....	8



## 新年のごあいさつ

(一社)茨城県治山林道協会会長 豊田 稔



新年あけましておめでとうございます。皆様方には、清々しい新年をお迎えのことと、心よりお慶び申し上げます。

また、日頃より当協会の運営に対しまして格別のご支援とご協力を賜り厚く御礼申し上げます。

さて、昨年も全国各地で多くの山地災害や林道被害が発生し、自然災害の危険度はより高いステージとなっております。その一方、地球温暖化対策として、脱炭素社会が唱えられ、カーボンニュートラルの実現を目指すこととされております。「緑の国土強靱化」に向けた治山事業、林

業・木材成長産業化や脱炭素社会の実現に向けた間伐・再造林等の基盤となる林道の路網整備事業を円滑に推進していくことは大変重要となっております。

このような中、当協会は本年4月から新たな組織として、これまで以上に安全・安心な県土づくりを目指すとともに、林業の活性化と成長産業化の実現に向けて、県や関係団体、会員市町村と密接に連携し、森林土木コンサル業務をとおして努めてまいります。

今後とも、なお一層のご高配を賜りますようお願い申し上げますとともに、皆様方のご健勝とご多幸を心からご祈念いたしまして新年のご挨拶とさせていただきます。

## 新年のごあいさつ

茨城県農林水産部長 根崎 良文



新年明けましておめでとうございます。

令和4年の年頭に当たり、謹んで新春のお慶びを申し上げます。

さて、近年は、台風や集中豪雨等に伴う自然災害が激甚化・頻発化しており、県民の皆様方の安心・安全な生活を維持するためにも、森林の持つ防災機能の重要性がますます高まっております。

こうした中、県では、国の「防災・減災、国土強靱化のための5か年加速化対策」の一環として、山地や海岸部における治山事業や間伐等の森林整備事業を積極的に推進しているところです。今後は、治山ダムや防潮護岸の整備に加え、既存施設の嵩上げ等の機能強化にも

一層取り組み、災害に強い森林づくりを推進してまいります。

また、森林湖沼環境税につきましては、引き続き本県の森林並びに湖沼及び河川の環境保全を図るため、5年間延長させていただくこととなりました。

第4期では、森林経営の集約化を一層推進し、適切な森林整備と県産木材の利用促進等による森林資源の循環利用を進めることで、森林の公益的機能の持続的発揮とカーボンニュートラルの実現に貢献してまいりたいと考えております。

結びに、これらの取組を着実に進め、防災・減災と災害に強い県土づくりに努めてまいりますので、皆様方のなお一層の御理解と御協力を賜りますようお願い申し上げます。新年の挨拶とさせていただきます。

# 第61回治山研究発表会における 発表について

## 茨城県林業技術センター

令和3年10月28日(木)から11月26日(金)の期間、治山研究発表会・治山シンポジウム実行委員会主催により第61回治山研究発表会がWEB上で開催されました。当センターでは、「海岸防災林におけるマツ材線虫病被害跡地への広葉樹植栽について」と題して発表を行いましたので、その内容についてご紹介いたします。

### 1. 発表内容について

茨城県の海岸防災林ではマツ材線虫病の被害を受けてクロマツが枯れ、一部では林帯を保てず、防災林の機能が低下しています。対策として、クロマツを主とした林分から、広葉樹を含む多様な樹種で構成される林分への誘導が有効と考えられます。そこで、当センターが研究している、広葉樹植栽による防災林機能の早期復旧の可能性を検討した結果を発表しました。

① 平成28年、大洗町のマツ材線虫病被害跡地にクロマツ、マサキ、クロガネモチ、ネズミモチ、トベラを植栽、平成29年及び令和2年に植栽木の樹高及び土壌の腐植質深度を調査しました。その結果、腐植質層が厚い場所で広葉樹の樹高成長量が最も大きくなり、施肥により成長量が増大する可能性が示唆されました。



試験地状況：大洗町

② 平成23年、神栖市のクロマツ林(樹高約6.8m、2,390本/ha)の樹下にスダジイほか3樹種を植栽、令和2年に顕著なマツ材線虫病被害があり、令和3年に植栽木の樹高を調査しました。クロマツの代替樹種として期待したスダジイは平均樹高約2.2mで、マツ材線虫病被害前のクロマツ林の樹高になるには時間を要すると考えられました。



試験地状況：神栖市

### 2. おわりに

海岸防災林への広葉樹植栽は、施肥が必要であり、成林するまでに時間を要する一方、マツ材線虫病被害対策としては薬剤散布の必要がなくなり、有効な対策であると考えています。

当センターでは、海岸防災林に植栽した広葉樹がより早期に成林し、公益的機能が発揮されるよう、試験研究を進めてまいります。



## 合併にあたり当協会が

## 歩んできた軌跡を振り返って

(一社)茨城県治山林道協会は、令和4年4月1日に新たな団体(公益社団法人)森林・林業協会の治山林道部として、これまで以上に県や市町村と連絡調整を密にし協力体制を維持しながら、より力強く活動を開始することになりました。

このため、当該協会がこれまで歩んできた軌跡を、改めて振り返ってみることとしました。

### ◎第2次世界大戦時の我が国の森林状況

第2次世界大戦の時期は、鉄や石油等の天然資源の乏しい我が国では、国内で生産できる資源の多くは徴用に供され、緑豊かな森林資源も次々に伐採され徴用に供用されました。更には、航空燃料用として松の木から松根油と称する油を採取するため、尾根筋の松林までも伐採利用される状況となりました。

戦後は、主要な都市が戦災を受けて、食料も生活物質も乏しい中で、民間住宅や公共用建物の建築用材として、更には炊事や暖房のための燃料として、針葉樹、広葉樹を問わず多くの森林資源が急激に伐採され、緑豊かな森林は広大な面積で荒廃してしまいました。

この結果、これまで類のなかった様な大水害や大規模な山地の崩壊等が全国各地で頻発し、国民の安全・安心な生活に重大な影響を与え始め、山地を安定を図るための治山事業と林地への植栽の必要性が国民の間で急浮上しました。

### ◎本県の治山・林道にかかる組織の設立の経緯

昭和20年8月の大戦終了とともに、県・市町村・林業団体等のあいだで、荒廃森林に起因する災害の発生、森林資源の枯渇を危惧する気運が急激に高まり、森林に対する復興気運が高まりました。

このような中、林野公共事業は戦後のインフレ等の影響を受けて実質的な伸びは低く、荒廃した森林の復旧は思うように進まなかった。また、同時に治山、林道事業の測量設計・施工工事の技術力に対する課題も抱えていた。

このような現状に鑑み、県内の市町村長のあいだから早急な事業推進対策を強力に進めるべきであるとの

声が高まり、林地の保全を早急に力強く進めるための陳情・要望等の活動を組織的に展開し、その成果を確実に実行に繋げるため活動の母体となる機関を設置する必要性が認められ、昭和23年に設立発起会が開催され、同年10月に参議院柴田政次議員を初代会長とする茨城県治山協会(会員34市町村)、続いて12月に県林務課長の飯田文之進氏を初代会長として茨城県林道協会(37市町村)が設立され、予算拡大のための陳情・要望活動や測量・設計に係る専門的技術者の育成に努め始めました。

その後、昭和51年7月に治山協会と林道協会が合併して初代岩瀬町長・県議会議員を務めた大和田義一氏が初代茨城県治山林道協会となり、昭和53年度から治山・林道に係る森林土木コンサルタント業務を本格的に開始し現在に至っている。

### ◎茨城県の治山事業の足跡

遠藤安太郎の「日本山林史」によると、弘化2年(1845)に柳川宗左衛門が水戸藩から利根川河口より北西約4里(約15.7Km)の海岸砂地160町歩(約158ha)の面積を無償で払い下げを受けて、幅30間(約55m)にクロマツを植栽し飛砂・潮害を防止する森林を造成したとされており、このことは、本県の記録に残る最初の大規模な治山事業であると言われている。

その後の大正5年には、県営砂防林造成事業が現在の神栖市内で始まるなど、海岸部の治山事業が本格的に開始された。

このような中、山地に目を向けると明治44年に発足した「第一期森林治水事業」が大正11年に本県においても開始され公有林、社寺有林、私有保安林、造林命令地において荒廃復旧事業が開始された。時代の経過により、森林治水事業及び災害防止林業施設は包括されて「治山事業」に一本化された。

その後、昭和28年には昭和29年度を初年度とする治山事業10カ年計画が策定されと同時に、治山事業を効率的に実施するために県内の市町村の10ヶ

所の治山事業所が設けられ、県として荒廃した森林の復旧に向けて積極的に取り組む体制を強化した。

また、山地森林の復旧体制が整う中、昭和46年度と47年度には海岸の異常高潮による記録的な海岸施設災害が発生し、本県では初めてとなるコンクリート波返護岸工を東海村豊岡・大洗町成田・銚田市冷水、同勝下・下荒地内で実施された。また、昭和46年8月の台風23号による林地崩壊の復旧として、本県で初めてとなる緊急治山事業が採択され北茨城市華川町水沼、高萩市下君田で実施された。その後も、国においては国民のニーズ、時代の流れに対応した施策が展開され、本県においても新たな施策に対応した治山事業を展開し、県民の安全・安心な生活の維持に寄与するように努めて現在に至っている。

### ◎茨城県の林道事業の足跡

林道事業は、治山事業より歴史が浅く昭和6年度の9月に林道開設を目的として黒沢村（現大子町）地内の腐沢土工森林組合が設立され、10月には生瀬村（現大子町）地内に高柴施業森林組合が設立され、冷害対策として林道事業が開始されたのが、本県における最初の林道事業と言われている。その後は、北茨城市、高萩市、日立市等でも同様に林道に着工するようになってきた。昭和28年になると国補林道事業の他に県単独の林道事業も開始され、県内の多くの市町村では林道事業への取り組みが加速化された。

このような中、林地荒廃地の復旧・伐採跡地の造林・植栽の効率化、そして地域の振興を促進するため延長が長く市町村間を繋ぐ峰超林道を始め、大子町の林業地帯を走る八溝林道事業や筑波山地区を結ぶ北筑波稜線林道事業、さらには大子町の男体山麓を横断する奥久慈林業地帯林道事業、そして平成7年度には、県営事業として大子町・常陸大宮市・常陸太田市の3市町の林業の振興と地域交通網の整備を促進するため奥久慈グリーンライン林道整備事業が開始されるなど地域の基幹となる林道が整備された。

また、市町村が事業主体となって行う林道についても、昭和7年度に発足した景気対策を目的とした公共事業の時局匡救林道開設事業が茨城県でも昭和8

年度から開始され多くの市町村で林道事業に着手した。

その後は、新たな時代の流れと共に新しい制度に基づく林道開設や林業構造改善事業による林道事業など県内では多くの市町村が積極的に林道事業を展開し、山村地域の生活環境の改善、森林・林業の振興に寄与する林道開設の実績を積んできているが、最近に至っては新たに着手する林道の路線数の減少傾向にある。

### ◎当協会治山担当者の思い

県から治山事業の山地崩壊等の復旧に係る測量・設計のコンサル業務を受託した場合に現地へ赴いたときに一番最初に思うことは、地域の森林に優しい復旧工法と崩壊地等が将来に向かって安定的に復旧できる工法はどのようにすべきか等の思いが脳裏を走る。

また、予防治山については、より効果的な予防治山ダムの位置の決定にも地域の森林の状況、溪流・地形等から判断するが、長年業務に携わってきても予防治山ダムの位置の決定には緊張を感じる。更に、海岸部の護岸施設の被災地を見ると自然災害の脅威を強く感じ、これら被災施設の復旧工法として経済的でベストな方法はいかなる方法かと打ち寄せる荒波を見ながら考えさせられる事が多い。

このような中、受託した現場においては、協会職員が一丸となり工法等を検討するとともに関係機関とも綿密に連絡調整を行って、成果品を納品し工事の完了後にも現場に足を運んでその成果を確認してきている。

### ◎記憶に残る現場写真



復旧施設(大子町下野宮)

## (6) みどりとともに



台風被害の現地(東海村白方)

### ◎記憶に残る現場写真



奥久慈グリーンライン林道水根持方線

### ◎当協会林道担当者の思い出

灌木や雑が生い茂る森林内を刈払いをしながら道なき道を踏査し、森林の状況や地形等を的確に把握し森林整備の基幹となる林道について完成後イメージしながら測量・設計を行い関係市町村に納品し工事完成後の林道を見ながら自分のイメージ合わせてみられるのは林道担当者が味わえる喜びである。

このような中、これまでに県営林道・市町村林道の測量設計を受託してきたが、特に思い出に残る林道測量は、奥久慈グリーンライン林道整備事業の武生線である。このルートは、龍神ダムに面する極めて急な斜面を通過しなければならない区間があり、測量そのものも危険で命がけの場所となっていたが、細心の注意を払い安全に測量をして無事に成果品を納品できた時は感無量であり、工事が安全に実施されますようにと心の中で祈っていたのを思い出す。



奥久慈グリーンライン林道武生線

### ◎結びに

本年4月に林業団体の組織の強化を図るため、(公社)茨城県林業協会・(公社)緑化推進機構・(一社)治山林道協会の林業3団体が合併することとなります。

これまでの茨城県治山林道協会は、公益社団法人茨城県森林・林業協会の治山林道部として、その役割を担うこととなります。

つきましては、これまで同様に県との協力関係を維持し市町村とは、より密に連絡調整を行いまして、県や市町村が行う森林土木行政を補完する組織として、期待に応えられるよう役職員が一丸となって努力していく覚悟です。ですので、これまで同様に温かいご支援・ご協力をお願い申し上げます。

## 治山林道関係コンクールについて

令和3年度茨城県民有林治山・林道関係コンクールを茨城県の後援を得て開催しました。

審査結果は次の通りです。

### (1)治山工事コンクール

順位	事業名	請負業者
1 中央推薦	R1 第2号 災害関連緊急治山 笠間市上加賀田	(株)高田工務店 笠間市
2	R2 第3号 海岸防災林造成 東海村白方	常総開発工業(株) 神栖市
3	R1 第4号 海岸防災林造成 鉾田市上沢	藤枝建設(株) 鉾田市
4	R1 第1号 予防治山 北茨城市平潟町	(株)秋山工務店 日立市
5	R2 第1号 復旧治山 北茨城市磯原町豊田	(株)千葉工務店 北茨城市
6	R1 第2号 復旧治山 北茨城市磯原町豊田	(株)千葉工務店 北茨城市
7	R1 第5号 予防治山 笠間市上郷	柴山土建(株) 笠間市
8	R2 第8号 予防治山 桜川市山口	(株)長谷川興業 桜川市
9	R1 第3号 予防治山 大子町頃藤	(株)角石 大子町
10	R1 第6号 予防治山 石岡市真家	小桜建設(株) 石岡市
特別賞	R1 第1号 海岸防災林造成 日立市十王町伊師	(株)秋山工務店 日立市



治山工事「災害関連緊急治山」(株)高田工務店

### (2)林道工事コンクール

順位	事業名	請負業者
1	R1 志那志沢線改良 常陸大宮市檜山	長山工業(株) 常陸大宮市
2	R1 諸沢北富田線開設 常陸大宮市諸沢	野上建設(株) 常陸大宮市
3	北筑波稜線第Ⅱ工区落石防止 桜川市真壁町山尾・白井	(株)たばやし 桜川市

### (3)林道維持管理コンクール

順位	事業名	請負業者	備考
1	高岩沢線	常陸大宮市	中央推薦
2	袋田男体湯沢線	大子町	



林道維持管理「高岩沢線」常陸大宮市

### (4)令和3年度治山・林道コンクール表彰式

11月24日、東京都内の海運クラブにおいて治山林道コンクールの表彰式が行われました。

当協会から推薦した結果、下記のとおり受賞されました。

おめでとうございます！

○治山工事：日本治山治水協会長賞

「災害関連緊急治山」(株)高田工務店

○林道維持管理：日本林道協会長賞

「高岩沢線」常陸大宮市



林道維持管理コンクール受賞者  
前列中央左 鈴木定幸常陸大宮市長

○ 協会の主な動き ○ 7月～12月

- ▲ 7月5日～7日  
都道府県森林土木コンサルタント連絡協議会  
夏期技術研修会(WEB参加)
- 7月8日～9日  
関東甲静地区治山林道協会連絡協議会  
第42回通常総会(群馬県)
- 7月15日  
茨城県森林湖沼環境税の継続要望(水戸市)
- ▲ 8月25日  
(公社)茨城県緑化推進機構 第2回理事会  
(書面表決)
- 8月26日  
関東甲静地区 令和4年度 治山林道事業  
林野庁・中央協会等へ要望活動(東京都)  
(公社)茨城県林業協会 第2回理事会(水戸市)
- 8月27日  
令和3年度第2回理事会(書面表決)
- 8月31日  
3団体合併契約締結(水戸市)
- ▲ 9月15日  
(一社)日本治山治水協会 定時総会(東京都)  
(公社)茨城県林業協会 臨時総会(書面表決)  
(公社)茨城県緑化推進機構 臨時総会  
(書面表決)
- 9月16日  
(公社)茨城県林業協会 第3回幹事会(水戸市)
- 9月28日  
(公社)茨城県林業協会 第3回理事会(水戸市)
- ▲ 10月7日～8日  
全国治山林道協会会長会議(広島県)
- 10月30日～31日  
いばらき森林づくり・木づかいキャンペーン2021  
(笠間市)
- ▲ 11月5日  
茨城県農林水産業関係団体連絡会事務局会議  
(水戸市)
- 11月6日～7日  
いばらき森林づくり・木づかいキャンペーン2021  
(水戸市)
- 11月24日  
日本林道協会 通常総会(東京都)  
2021 治山・林道のつどい  
治山林道コンクール表彰式

- 11月29日  
令和3年度第3回理事会(水戸市)
- ▲ 12月7日  
石井理事長を囲み森林・林業の未来を語る集い  
(水戸市)
- 12月13日  
(公社)茨城県林業協会 第4回幹事会(水戸市)
- 12月14日  
茨城県農林水産業関係団体連絡会  
県選出国会議員との懇談会(東京都)

今後の予定

- 1月20日  
林業団体合同新年の集い
- 1月26日  
全国治山林道協会会長会議  
民有林振興会 総会・セミナー
- 1月27日  
日本林業再生における協会活動等に関する  
研究会



「みどりとともに」

(年2回 発行)

一般社団法人 茨城県治山林道協会

編集・発行 豊田 稔

水戸市三の丸1丁目3番2号  
林業会館3階

TEL 029-225-7280

FAX 029-225-7582

<http://business2.plala.or.jp/iba-crk>

e-mail:chisan@atlas.plala.or.jp

表紙の写真:「ミコアイサ曙光を受けて」  
(那珂市中里ため池地内)  
神長輝夫氏 撮影